

以下五金圓等ハ不賜方徳當ナレハ付
外國人ニシテ危難救助ノ功勞定例賞
ニ相當スル者アリトキハ褒章條例ニ
據ラス十四年當省乙第三十号達ヲ以
處分爲致候方可然ト見込候得共該條
例中別ニ明文ニ無之儀ニ付一應御意
見致承知度尤本件ニ付府縣伺出ニ對
ニ指示之都合ニ有之候間可成速ニ御
報有之度此段及御照會候也

明治七年三月廿七日 内務卿伯爵山縣有朋

賞勳局總裁伯爵柳原前光殿



防海費獻納者賞典内規

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治二十年七月四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

局甲一一九号

明治二十年七月一日

内閣書記官  

内閣總理大臣

内閣書記官長 

各省大臣

外務 部	陸軍 部	海軍 部	文部 部
内務 部	陸軍 省	司法 部	農商 部
			文部 省
			逓信 部

防海費獻納者賞典内規
右閣議ニ供ス

三

別紙防海費獻納者賞典内規進呈
乞高裁候也

明治廿年六月 日

賞勳局總裁伯爵柙原前光
内閣書記官長子爵田中光顯

防海費献納者賞典内規

一黄綬褒章ハ何人タルヲ論セス一般之ヲ賜

フ但シ壹萬圓以上ハ金章千圓以上ハ銀章ト

ス一獻金ノ多少ニ應シ叙位セラル、下如左

拾五萬圓以上 正四位

拾萬圓以上 從四位

七萬圓以上 正五位

五萬圓以上 從五位

参萬圓以上 正六位

壹萬圓以上 從六位

七千圓以上

正七位
從七位

一叙位セラル、者ハ勅奏判任官ヲ除キ華士族平民ニ限ル但シ現ニ有位ノ者又ハ人躰ノ情况ニ應シ其階級ヲ斟酌スルヲアルヘシ

一數人共同シテ献金セシ者ハ褒状ヲ賜フ但シ其人員少ナク一人ノ納額千圓以上ニ至リシトテ詳查シタル時ハ仍ホ褒章ヲ賜フ五千圓以上ノ時ハ位階ヲ授ク

一賞典ハ大藏大臣ヨリ献金全納ノ旨賞勳局總裁ヘ報告シタル後之ヲ執行ス
一褒章褒状ハ賞勳局總裁之ヲ執行ス

一叙位ハ内閣書記官長之ヲ起案シ總理大臣ヘ具申シ勅裁ノ後宮内省へ移シ同省大臣宣奉ノ位記ヲ以テ之ヲ授與ス
一此賞典事件ハ賞勳局總裁内閣書記官長ニ於テ擔任協議シ之ヲ執行ス